

南極地域観測事業に関する今後の輸送体制について

現在、南極地域観測事業の輸送を担っている①砕氷艦「しらせ」が2034年(令和16年)に、②多用機ヘリ「CH-101」が2033年(令和15年)頃に、それぞれ退役等により使用を終える予定であることを踏まえ、その後の輸送体制は以下のとおりとする。

- 南極大陸の中で最もアクセスが困難な東南極にある昭和基地を拠点として、今後も観測等の事業を継続する観点から、
 - ・ 「しらせ」後継船の所有及び運用主体は、国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)とし、ヘリの運用主体は大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所とする。
 - ・ 防衛省・自衛隊は、氷海航行や氷上輸送等に必要な海上自衛官の派遣等により、引き続き協力を行う。
- これにより、安全も確保しつつ、運用面での柔軟性等を向上させ、より一層、社会的要請に応える事業運営を目指す。

※ 上記が着実に進められるよう、本部の下でさらに具体的な検討を進めることとする。